

男女がエッチし放
題 周遊列車の旅
その後は海へ 男
女夏物語 後編

.....。

.....列車は走り続ける。

山々を潜り抜けながら体がエッチなものへと成長していく男女たち・・・・・・・・

年齢に関係なくすっぽんぽんで遊ぶ。

男女たちが平凡な人生から

セックスに狂い明かす日々への転換なのである。

裸の男女を乗せて走る。

濃い緑の自然の山々は女子たちの目に男子たちにピストンされながら新しい風景へと変わる。

・・・・・・・・・・見たこともないような。

生まれて初めての。だからすっぽんぽん。

例えば新しいグループに入る。

組織会社に入社する。

そういった過渡期で

・・・・・・・・・・人は何度も生まれ
変わるのだという・・・・・・・・。

切符は入り口のところに散乱している。

列車に乗り込んだが最後、男女たちはパ
ラダイスを手に入れる。

・・・・・・・・・・もう戻れない永遠の快
楽に向けて・・・・・・・・。

即座に膝を上げ、スカートを脱ぎ

残った白い下着のまま

男性と抱き合う。

唇を重ねる女子の唇は薄く白い。

リップクリームが塗ってある。

スカートはくしゃくしゃに列車の床に
投げ捨てられており、白い下着のまままだ。

ブラジャーはピンク。

それを取れば真っ白な乳首が顔を出す。

ずっと何十分もキスをしている。

右ひざを立てて抱き合いキスしながら
少し上げる。

「・・・・・・・・これから、たっぷり死ぬまでエッチしようね」

唾液が絡まる。

下着のひもが少しダランと垂れ下がっている。ヒップの結び目。

とにかく真っ白。真っ白の下着である。

女子たちは皆、オナニーをせずにぴっち

ぴちのパイパンの状態で純粹を守り続けてきた者たちばかりである。

だからこそリップクリームの透明度はすごい。

男子とキスを交わしながら足を男子たちのズボンに絡ませる。

割れ目からは少しだけねばねば液が滲む。

膝は後ろ側は透明で肌色。

脇は無毛。

抱き合う旨と胸で巨大なおっぱいは少し平たくつぶれる。ぎゅっと。

しばらく抱き合った後、

流れる景色のすぐそばで二人は裸にな
った・・・・・・・・・・。

・・・・・・・・これは一例。

何も変わらず何十年も山の麓の国道わ
きに立っている電灯が

ひっそりと見守っている。

一日目の夜が来ようとしている。

静かな夜。星が散りばめられている。

列車は変わらぬ速度で走っている
.....
.....。

・・・・・・・・・・列車内の思い出を回想する男女たち。

海でビーチバレーを楽しむ男女たちは思い出していた。

「列車に乗るきっかけってなんだったの？」

女子の一人ナナハのビキニは薄いピンク色。

男子のリョウトが冗談半分で腰の結び目をそっとほどこいて見せた。

「キャッツ！！！！エッチ！！すっごくやっぱり男子ってエッチだよね！！」

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)